
金色のガッシュ!! ?漆黒?の魔本

シーザス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金色のガッシュュ！！？漆黒？の魔本

【NZコード】

N1114Y

【作者名】

シーザス

【あらすじ】

魔界の王を決める戦いのために魔界から物の子百人が人間界に送り込まれてきた。

その中の一人、セナは？漆黒？の魔本を持っていた。

魔物^{セナ}の呪文はオリジナルが入っています。

セナはほとんどの魔物の呪文を使えます。

セナはガッシュの親友です。

「金色のガッシュ！」の原作に一部関係していないものもありますが、気にしないで頂きたく思います。

今日も晴れた空。

いーい天氣だ。

・・・・・「イツが居なればな。

* .「

* .「すう . . .すう . . .

* .「 おい。」

* .「すすすすや . . .

* .「 起きひー！」

* .「ZZZZ . . .

* . 「起きて！ セナ！」

セナ . 「 なんだよ . . . ? 人が夢見心地で
眠つてたのに . . . 」

* . 「今日はガツシユつて子を探しに日本に行くんだ？ 早く準備して行こうぜ」

セナ . 「 そうだつた。 ガツシユ、 元気かな . . . んじゃ、 準備して行こうか。 『聖菜』」

聖菜 . 「おひ。」

. .

セナは、はつきり言つて凄い美人だ。

だけど、『女』では無い。

故に『男の娘』である。

惚れた男は星の数。

・・・

聖菜・「セナ。『核鉄』持つていいくの?」

セナ・「うん。持つていいくよ。」

聖菜・「じゃあさ、俺に『X-E-I-L』(12)番の『核鉄』かしてく
れよ。」「激戦」

セナ・「『X-E-I-L』番…「激戦」? いいよ。はい。」

セナは『X-E-I-L』と裏表に書かれた六角形の塊(?)、『核鉄』を
手渡してきた。

聖菜・「セナは?」

セナ・「『C(100)番』の[防護服]^{シルバースキン}」

セナは、裏表に『C』と書かれた『核鉄』を持って、即答する。

聖菜・「んじゃ行くか。」

セナ・「うん。」

俺達は部屋から出た。

セナ・「あれ・・・? 迷った・・・?」

セナは道に迷っていた。

現在の居場所は森の中!

ある意味、迷う方があり得ない。

セナ・「ハア・・・『蒼天に座せ』・・・『氷輪丸』! !

僕は「とある木」に向かって『氷輪丸』の「氷の竜」を放った。

パキーン!!

その木は凍りついた。

しかし、その場から離れた影が動いた。

スタッ · ·

* · 「まったく生きなりとは危ないじゃないか。」

セナ · 「ふん、魔界の民を消そつとしている貴様には言われたくないな。クリア」

クリア · 「僕の使命のため · · · 君には消えてもらひうよ。」

セナ · 「お前にほしばらぐの間、眠つていてもひうよ。」

ヴィィノー · 「ラティス！」

クリアの右手から光が放たれる。

セナ · 「仕方ないよね？ 聖菜も居ないし。」

僕は首に深い青色の宝石がついているネックレスを付けた。

セナ · 「第三の術アイスシルド！」

バキン！

氷の柱がクリアの「術」ラディスを防ぐ。

クリア・「」ればどうかなー!?

ヴィニー・「ランズ・ラディス！」

クリアの右手の掌に槍が出現する。ランス

セナ・「終わりだ。
『凍てつけ』
エターナルアイス

クリア・「なに・・・!?

ランズ・ラディスガ・・・!?

それ

に、体が・・・」

クリアの全身が冷気によつて凍つていく。

パキパキ

パキイン・・・！！

セナ 「……………これでしばらくは大丈夫だな。」

僕は凍り付けになつたクリアを見て、それから直ぐにその場を離れた。

「なんではぐれたんだ？」町までは一本道だったのに……。

俺はセナと合流して今、高嶺の家に向かっていた。

「嫌さあ……」「魔物を消さうとしてる魔物」と戦つてあ……。
凍り付けにしてきた。」「

「お前……『本』が無くても『術』使えんの？」

「これ

セナは「深い青色の宝石」を取り出した。

「？」

「これを持っていれば魔物は『本の持ち主』、または『本』が無くても『術』が使えるんだ。」「

「ふうん……」「

聖菜はあきれた顔をす。

「嫌、お前には《核鉄》やらな」ちがふかひあるからりままで焦らん。

「

「清麿さんの家はまだなの？」

「こわなり口調変えんなよ。怖いか。まだだ。もう少し
し行つた側の角を曲がるんだ。」

「えじや、おひれあ

「んなー? おこー! 待てよー!」

「早い者勝ちだろ? 待たないよ」

「ちくへじゅうひーーーだが、負けんーーー」

「つおーーー? 知速ーーー」

そのまま、清麿さんの家の前まで競争した。

その後

「アーヴィング、アーヴィング、アーヴィング！」

「だらしないなあ ・・ ホントに元陸上部?
体力無さすぎだよ?」

「うつさい・・・やめてから・・・全然・・・動いてなかつた・・・

「情けないよ・・・」

「すまん」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1114y/>

金色のガッシュ!! ?漆黒?の魔本

2011年11月17日12時40分発行